



主張

新たな「全日中教育ビジョン」を踏まえた

健全育成の取組

板垣育生

中学校教育を取り巻く現状を見ますと、急激な社会情勢の変化の中で、少子高齢化、グローバル化、情報化社会への対応など、様々な社会的な課題を抱えています。そのような状況の中で、成熟社会に適合した持続可能な新たな社会モデルを構築していくことが求められており、その実現のためには、教育こそが人生を豊かにし、社会全体の一層の発展を実現する基盤であることを再認識しなければなりません。

また、中学校教育の現状を見ますと、いじめや不登校など、喫緊の重要課題の解決に加えて、規範意識の育成や情報端末機器によるトラブルへの対応など、家庭や地域社会と連携した組織的な対応がこれまで以上に求められています。

このような状況を踏まえて、全日中では、本年三月に「全日中教育ビジョン 学校からの教育改革」を再改訂し、改めてこれを「学校の最高責任者である校長自身の教育改革・学校改革の指針」として、教育改革に積極的に取り組んでいくこととしています。

「全日中教育ビジョン」の中の健全育成にかかわる部分には、第2章「学校からの教育改革の視点」の「健全育成の推進」の項に、「現状と課題」として、急激な変化の中で人間関係形成・調整能力や規範意識、自己指導能力の育成などが求められており、生徒の心



の変化への対応、基本的な生活習慣の確立、学校・家庭・地域社会の三者の連携・役割分担が大切であると記されております。また、情報端末機器の正しい利用も含めて、メディア社会への対応も喫緊の課題であると示されています。

さらに、「改善の方向性」として、(ア)心と体の健康を目指す教育の充実(イ)非行・問題行動の防止(ウ)いじめ・不登校生徒への対応(エ)家庭・地域社会との連携(オ)教員の指導力の向上の五項目が挙げられています。

また、第3章「全日本中学校長会からの10の提言」の提言2「健全育成」には、「家庭や地域社会と連携し確固たる規範意識を醸成する学校運営を行い、生徒の自己指導能力を育てる教育を展開する。」という提言が掲げられており、具体的な努力目標として、①学校・家庭・地域社会の責任分担と連携強化②学校への適切な行政支援と地域教育力の向上に向けた教育委員会の取組の推進③いじめの未然防止と適切な対応④達成感・自己有用感を味わわせる体験活動⑤社会の変化に対応した迅速・適切な対応(情報モラル・メディア犯罪防止、関係諸機関と連携した生徒指導)⑥スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した不登校対応の六項目が挙げられています。

私たち校長は、この「全日中教育ビジョン」に示された指針を踏まえて、生徒の健全育成に全力で取り組むとともに、学校経営の責任者としての使命感と確固たる教育理念のもと、「社会を生き抜き、未来を切り拓く日本人を育てる」ための学校運営全般にわたって明確なビジョンを示して、強力なリーダーシップを発揮していかねばならないと考えています。

(全日中副会長・前山口県周南市立岐陽中学校長)